



ドイツからの
環境・エネルギー
先端レポート

ゴミとリサイクル ① ～分別上手は節約上手～

●松田 雅央(まつだまさひろ)
1966年盛岡生まれ。カールスルーエ市在住ジャーナリスト。
1992年東京都立大学工学研究科大学院修了、1995年渡独。
趣味はサイクリング。自然豊かな農村地帯を走る爽快さが好き。
<http://www.umwelt.jp/>

3種類のゴミコンテナ

ドイツの建物には必ず数種類のゴミコンテナ(ゴミ収集ボックス、写真1)が置かれています。一戸建て、アパート、事業所の別なく、建物の所有者は自治体の清掃局からゴミコンテナ(有料)を借り敷地内に設置しなければなりません。コンテナの種類は自治体によって多少異なりますが、ここでは私が住むカールスルーエ市を例にしてみましょう。

第1のゴミコンテナは「資源ゴミ」です。紙・プラスチック・金属・木材といったこれらのゴミは、収集後(写真2)に機械と人手で分別されてから、資源として各種リサイクル工場へ売却されます。



写真1. 雑居ビルのゴミコンテナ置き場

資源ゴミ(右)と一般ゴミ(中)は2週間毎、生ゴミ(左)は1週間毎に収集されます。もしこのビルに飲食店が入居していれば、もっと大きな生ゴミコンテナが必要になるでしょう。



写真2. ゴミ収集の様子

清掃局のゴミ収集車が各戸(各建物)を回ります。ゴミを収集所に集める日本の「ステーション収集」に比べ、収集の手間が増えるのはデメリット。逆に、個々の住民がゴミの捨て方に責任を持つようになるのがメリットです。

第2は台所のゴミや植物、いわゆる「生ゴミ」です。これは発酵処理され、発生するメタンを発電と温水供給に利用します。

最後は雑多な「一般ゴミ」。ボロ雑巾、割れた食器、掃除機のゴミ袋、壊れたおもちゃなど分別・リサイクル不可なこういったゴミは焼却処分されることになります。

ガラス、古紙、粗大ゴミなど別ルートで収集されるゴミを除けば、日常的なゴミは大体この3つに分類できるはずで

努力がお金になる仕組み

コンテナの大きさには80から1,100リットルまで5種類あり、月々のゴミコンテナ使用料が、すなわち公共のゴミ料金ということになります。料金はコンテナが小さいほど安く、また分別を促すため資源ゴミコンテナは一般ゴミコンテナより割安に設定されています。このような仕組みのため努力次第で料金を減らせる、というのがこの仕組みのミソ。生活を見直してゴミを少なくし、小さいゴミコンテナに借り替えられればその分だけ節約できるわけです。

具体的な「家庭のゴミ政策」を考えてみると…

最初のステップは、なるべく包装の少ない商品を買う、リサイクルできるものは公共の収集ボックスに捨てるといったゴミの減量です。小売店は顧客サービスのためゴミ箱を置いていますから、持ち帰らなくていい商品の外箱はここに捨ててしまいます。新聞やダンボールをまとめて古紙収集(無料)に出すのはもちろん、ゴミの分別を徹底し、今まで一般ゴミとして捨てていたものを資源ゴミコンテナに捨てるようにします。こうしてコンテナ、とりわけ割高な一般ゴミコンテナを小さいものに借り換えられれば節約成功です。

写真1の雑居ビルは資源ゴミ1,100リットル(最大)、生ゴミ80リットル(最小)、一般ゴミ770リットルのコンテナを置いていますから月々の料金は合計2万8千円。1世帯3,500円に相当し、決して小さい額ではありません。「努力が金(節約)になる仕組み」がゴミの減量・分別に対する市民のやる気をシンプルかつ効果的に刺激します。

取材協力：カールスルーエ市清掃局(Stadt Karlsruhe Amt für Abfallwirtschaft)

編集後記

だんだんと春めいた日も多くなってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？花粉が飛散しはじめてつらい方も多いのではないのでしょうか。この花粉症も地球温暖化や都市化と無縁ではないようです。地球温暖化による気温の上昇で、植物の成長が早まり花粉の量が増えています。その花粉が飛んで地面に落ちると土の場合は吸収されますが、コンクリートの場合は地上に舞い上がってしまいます。同時にアレルギーを起こす物質を生産する植物や虫が増え、花粉症のようなアレルギー症状を起こす人が増えるとのことです。また、米国における実験では、大気中のCO₂が2倍になると、ブタクサの花粉が40-60%増えるとの研究結果もあるようです。地球規模の環境問題は、原因となる行動から目に見える影響・結果がでるまでに長い時間が

かかります。この時間差がわたしたち地球の住人にわたしたちの問題として環境問題を深く考える危機感をなくさせ、他人事のように考えてしまう要因ではないかと思えます。わたしたちの日々の生活の中で、地球温暖化について考えたり、議論したりする機会を設けることは難しいかも知れませんが、地球に今のようなことが起こっているのか正しい認識を持つ、買い物にマイバックを持参する、自動車通勤を自転車通勤に変えてみる、など、小さな心がけ、マインドセットの変更は、わたしたちの地球のために今日からできることなのではないかと思えます。小さなことからひとつとつはじめてみませんか。(よしだ)

表紙写真 写真家阿久沢利夫氏が撮影した富士山の写真をお届けします

富士山は、どの角度から眺めてもその姿は美しい。写真は、すそ野が最も美しく見られる忍野村から二キロほど南東へ向かった花の公園から撮影した極寒の富士です。



ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
Deutsche Asset Management
A Member of the Deutsche Bank Group



投資信託営業部
☎ 0120-442-785
(受付時間:営業日の午前9時から午後5時)
<http://www.damj.co.jp>